

（様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

室岡 由紀恵 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Long-term Prognosis Following Early Rehabilitation in the Intensive Care Unit:  
A Retrospective Cohort Study

（集中治療室における早期リハビリテーションの長期予後： 後ろ向きコホート研究）

Critical Care Medicine 51(8):1054-1063, 2023

Yukie Murooka, Yusuke Sasabuchi, Tomonori Takazawa, Hiroki Matsui, Hideo Yasunaga, Shigeru Saito

論文の要旨及び判定理由

室岡らはICUに入室した患者を対象に、早期リハビリテーションと長期予後との関連を、退院後の外来受診回数、再入院日数、医療費、長期生存の観点から、リハビリテーションが遅れた場合と比較検討した。

熊本県の国民健康保険および後期高齢者医療の保険請求データベースを利用し、2012年4月から2017年3月までのいずれかの入院期間中にICUに入室した患者を対象とした。リハビリテーションをICU入室後3日以内に受けた患者を早期リハビリテーション群、ICU入室後4日以上経過してから受けた患者を遅延リハビリテーション群と定義した。

合計6,679例の患者が研究に組み入れられ、傾向スコアマッチングにより2,245組が作成された。早期リハビリテーション群では退院後3年以内の通院回数は少なく、退院後の総入院期間は短く、退院後の総医療費と1ヵ月あたりの平均医療費は低かった。

本研究では、医療データベースを活用することでICU退室後の長期にわたって患者を追跡している。さらに、傾向スコアマッチングを用いることで、患者の背景特性をマッチングさせた上で、早期リハビリテーション群と遅延リハビリテーション群の長期予後を比較することができている。

ICU入室後3日以内にリハビリテーションを開始することは、退院後の入院期間の短縮および医療費の減少と関連していた。ICUに入室した患者に対する早期のリハビリテーションは、その後の医療資源の利用を減らす可能性があると考えられ、本研究の成果は今後の医療の改善に貢献すると考えられることから、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

（令和 6年 2月 5日）

審査委員

主査	群馬大学教授（医学系研究科） 救急医学分野担任	大嶋 清宏	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） リハビリテーション医学分野担任	和田 直樹	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 公衆衛生学分野担任	浜崎 景	印

（様式6， 2頁目）

最終試験の結果の要旨

レセプトデータを活用した医療情報研究を行う際の留意点について、および、早期リハビリテーションの臨床現場導入に対する課題点について

試問し満足すべき解答を得た。

（令和 6年 2月 5日）

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科）  
麻酔神経科学分野担任

齋藤 繁 印

群馬大学教授（医学系研究科）  
救急医学分野担任

大嶋 清宏 印